

教職員のコーナー

努力は実る

安井 大輔

1993年4月。忘れもしないこの年。周りの友だちは大学へ進学し、華やかな学生生活を始めていました。私は、希望する大学への受験に失敗し、福岡県の某予備校へ通うこととなりました。なぜ受験に失敗をしたのかというと、簡単なことです。勉強をしなかったからです。高校時代は部活ばかりにのめり込み、テスト前に少し勉強をする程度でした。両親からは「大丈夫か。」とよく言われましたが、「大丈夫大丈夫。」と勉強していないのに、自分をごまかして答えていました。能力もたいしてないのに、その上ごまかしていれば、失敗するのは当たり前です。浪人することになった時、両親には何も言えませんでした。ただ「同じ事は繰り返さないから。」とだけ言いました。それから予備校選びをしたわけですが、初めは県内にしようかと思っていました。でも、絶対に自分自身に甘えがでると思ったので、予備校は福岡県の北九州にある学校に決めました。家からは通えない場所だったので、寮に入ることになりました。寮の名前は「大志寮」。「少年よ大志を抱け」ではありませんが、予備校の寮としてはよくある名前だと思いました。

浪人生活を体験されている方なら、浪人生が毎日どんなふうにごろごろしているのかおわかりだと思いますが、私の場合は寮に入っていましたので、毎日規則正しい生活を送っていました。どんな生活だったか一部ご紹介します。

月～金	6:20	起床・朝食
	6:50	寮出発
	7:20	予備校にて朝自習
	8:30	授業開始
	12:00	昼食
	13:00	午後授業開始
	15:00	自習・授業
	16:30	寮へ戻る
	(遅い授業の時は18:00)	
	門限は17:00	
	17:00	夕食・入浴
	19:00	食堂で一斉自習
	22:00～23:00	各部屋で自由時間
	23:00	消灯

この生活が毎日続きます。予備校に行ったことにして、その辺でぶらぶら出来ないのか?と思いませんか。この予備校ではそれは不可能でした。授業毎にタイムカードがあり、必ず本人の直筆で書かなければいけなくなっていました。だから、その場がないとカードをもらうことができないし、欠席扱いになります。そうなるに寮に連絡がいき、そこから、実家に連絡し両親が呼び出されるというシステムになっていたのです。全て行動を把握されているのです。すごいと思いませんか。でも、私にとってはこのシステムがあったからこそ、この予備校を選んだとも言えます。高校時代は部活にのめり込み、ほと

んど勉強はしていませんでした。そのため、予備校での1年間の学習時間は高校3年間の学習時間を大幅に上回っていました。だから成績がどんどん伸びていったかということそうでもなく、初めの半年(夏休みの終わり)までは高校時代とほとんど変わりませんでした。予備校では「半年間は何も変わらない。半年後によろしくその頑張りがあらわれてくるから辛抱しよう。」とクラスの講師が言っていました。本当にそうなのかと半信半疑のまま半年を終えました。

センター試験1ヶ月前。12月にK塾という予備校でセンター模擬試験がありました。これがセンター試験前の最後の模試。これで結果が出ていなければ・・・とかなり不安な気持ちで試験に臨みました。しかし、結果はこれまでで最高の点数をとることができました。「勉強は積み重ねが大切なんだ。」と改めて実感しました。

そして、いよいよ本番のセンター試験。でも、なぜか落ち着いている自分がいました。現役の頃は、とても緊張して手も震えるほどでしたが、全くといってよいほど落ち着いていました。今考えると、現役の頃は自信なさが緊張につながったのだらうと思います。試験は2日間ありましたが、あっという間に終わった気がしました。

1994年4月。私は大学のキャンパスに立っていました。1年遅れでしたが、とてもすがすがしい気持ちでした。

予備校での1年間はストレートで大学に入学した人から見れば、かなり遠回りしているように思えます。しかし、私にとってこの1年は今でも貴重な1年だったなと思っています。この1年があったからこそ今の自分があるのだと言っても過言ではありません。それに、「努力は実る」という言葉ですが、私はこれを身をもって実感することができました。でも、これまでもいろいろなことで努力をしてきたことがあります。全て良い結果に結びついたとも言えません。

そもそも、「努力」とはどんなことなんだと考えたとき、「夢のある苦勞の事を努力と言う」ことを知りました。『ある目的を達成するために、途中で休んだり怠けたりせず、持てる能力のすべてを傾けてすることが努力である。(新明解国語辞典より)』つまり、本当の努力とは、自分の力で何とかするという事です。あの有名なエジソンも「発明とは、1%のひらめきと99%の努力だ」と言っています。

この釜山日本人学校に来て9ヶ月。私はこれから子どもたちのために努力をすることで、子どもたちに努力することの大切さを伝えていきたいと思っています。

タイトルの「努力は実る」これは、私が通っていた予備校のシンボルでした。



